

平成27年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000160	事業の開始年月日	平成19年10月1日	
		指定年月日	平成25年10月1日	
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所			
事業所名	グループホーム野の花			
所在地	( 245-0053 )			
	横浜市戸塚区上矢部町2115-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成27年9月28日	評価結果 市町村受理日	平成28年2月12日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会交流・機能訓練から、入居者様の機能維持向上を目指し、自立度を上げております。職員の介護負担を減らすことで、その時間を関わることで、入居者様に安心した、楽しい暮らしをして頂けるように力を入れております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年10月28日	評価機関 評価決定日	平成27年12月3日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

横浜市戸塚区を中心に十数か所の介護サービス事業所を持つ「株式会社カスタムメディカル研究所」が運営するグループホーム「野の花」は、平成19年10月に開設された2ユニットの9年目の事業所で、JR戸塚駅西口より神奈中バスで上矢部高校前下車徒歩約5分の住宅街の一角にあります。

<優れている点>

地域交流を積極的に行っています。近隣の地域ケアプラザのふれあいフェスティバルに入居者の作品を出展したり、歌声喫茶に参加しています。入居者が入居前に通っていた地域のサークル活動に継続して参加出来るようにしています。グループホームのクリスマス会に近隣の住民を招待していたり、近隣の保育園とも交流しています。運営推進会議には、地域ケアプラザに研修に来ていた看護学生や一般の地域住民が参加しています。また、入居者の能力に合わせた掃除や食事の手伝い、洗濯物たたみなど生活全般に渡り、機能訓練として取り入れています。

<工夫点>

衛生管理について工夫しています。リビングには、空気清浄器と次亜塩素酸ソーダを含んだ加湿器を配置し、居室には次亜塩素酸ソーダを含んだ濡れタオルをかけたリ、加湿器を設置しています。トイレ掃除実行表を掲示して、定期的に掃除をしています。また、高齢者に合った音楽のジャンル別に曲を編集し、独自に編集した曲をリビングに流しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム野の花
ユニット名	1階コスモス

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	企業理念、グループホーム野の花の理念を理解して実践するように心掛けている。直近ではあるが、配属時にオリエンテーションにて教育を行っています。	理念は、リビングや事務所に掲示しています。入職時にはオリエンテーションとして理念について研修しています。事あるごとに朝礼などにおいて理念の中にある「その人らしさ」の対応ができていのかどうかを確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的なごみ清掃当番や地域ケアプラザの歌声サロン、くすのき保育園との交流、地域での行事への参加、パン販売を招き入居者様との交流の場を提供するといった、地域との交流を行っています。	近隣の地域ケアプラザのふれあいフェスティバルに入居者の作品を出展したり、歌声喫茶に参加しています。入居者が入居前に通っていた地域のサークル活動に継続して参加しています。クリスマス会に近隣の住民を招待したり、保育園とも交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて、近隣の方をお呼びし、グループホームでの実践の事例を紹介し、理解や支援方法を報告しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1階の運営推進会議において、役員の方、ご家族様や、近隣の方、入居者様より、意見を頂き、職員に報告し、質の向上を行っています。	2ヶ月に1度定期的開催しています。運営推進会議の参加者は、多岐にわたり、近隣の地域ケアプラザに研修に来ていた看護学生や近隣の高齢者の問題に興味のある住民などが参加しています。いろいろな視点から情報交換が行われています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区役所や、地域包括センターの方と連携して、ケアサービスの内容を伝え、協力関係が築けるよう取り組んでいます。	生活保護の関係や区役所などのやりとりがあります。戸塚区主催の感染症対策指導者養成研修や横浜高齢者グループホーム連絡会の戸塚・泉ブロック研修に参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待防止の研修を行い、禁止となる具体的内容を理解すると共に、報道での虐待事件を職員に報告して考えてもらう時間を作っている。また、虐待防止の対策を講じている。玄関の施錠は夜間帯のみ行っています。	「身体拘束禁止規定と高齢者虐待の関係」をマニュアルとしています。「高齢者虐待防止講習テキスト」で研修を行い、職員は報告書の提出をしています。入居まもなく、帰宅願望が強く、外出しようとする入居者の場合、必要に応じて期間を決めて居室の掃出し窓が少ししか開かないようにする場合、家族に説明をして同意書を貰っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を行い虐待防止を行うと共に、虐待についての報道を朝礼で紹介するようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修は今後行う予定で計画が立ててあります。また、入居者様で成年後見人制度の利用をしている方がおりますので、活用事例としては理解しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が契約者様と読み合わせを行い契約しており、疑問点がない様に努めております。解約時においては十分に相談や、質問に真摯に対応しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に、ご契約者様に意見をいただけることで、運営の質が向上できる旨をお話しております。また、利用者や家族の話を良く聞くことや、要望書ボックス、運営推進会議などから意見を運営に反映させています。	「苦情対応マニュアル」を整備し、「苦情記録票」を作成しています。「ご意見箱」を設置し、家族からの意見を聞いています。月に1回家族へ「生活状況のお知らせ」を送付し、家族からの意見を聞きやすくしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営改善の為にボードを設け、職員から意見を募るようにしたり、意見が出やすい環境整備を心がけており、職員の意見、提案が運営に直結できるように整いつつある。	年に1度、管理者との職員面談を設けています。職員からの意見などが言い易い雰囲気作りをしています。全体会議などにも意見や提案などがあり、帳票の変更や入浴日についての変更などを改善した事例があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者および上長には事業所訪問をしていただく機会があり、個々の実績を評価していただいたり、事業所の就業整備改善の一環で、職員全員を他事業所への研修を許可していただくなど、各自の向上心に期待されています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得や、実践者研修、研修、他事業所への研修など働きながらトレーニングする機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修先で、同業者との交流がり、意見交換し、質の向上に繋がっています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に入手した情報や入居後の本人様の状況を見て、穏やかに過ごせただけのように配慮し、声掛け、他入居者様との関係作りなどに支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始する段階で、ご家族と協働し、関係作りし、困っていることや、不安なことを共有できるように支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の意見を尊重し、ケアマネージャーや管理者と相談し、他のサービスを含め対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様をできること、できないことを見極め、生活に活気が生まれるように、一緒に生活する家族と意識できるような関係を築けるように支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員とご家族の関係をよりよくするように、入居者様のご様子といった手紙をご家族に送ったり、ご家族との外出や施設において、ご家族様による食事介助など、家族と共に、ご本人を支えるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が訪問されてきたり、馴染みの場所にお連れしたりといった、支援をしています。	入居者が入居前に通っていた自治会館で行われている音楽サロンや美容院へ職員が付き添って行っています。以前に住んでいたところへドライブにも行っています。管理者は入居前の生活と変わらないような生活が出来るように心掛けて支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様それぞれの個性を尊重しつつ他の利用者様との交流、かかわりを持つよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設に転居された方を訪問したり、以前から通っていた、ボランティアのサロンを継続したり、これまでの関係性を大事にしています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネージメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人から、ここで暮らしがしたいか聞くようにしています。本人の希望に応じた介護サービスが提供できるようにしています。	職員と一緒に生活に関する掃除や食事作り、洗濯物たたみや貼り絵などの作品作りを通じてコミュニケーションを計り信頼関係を作っていくことを心掛けています。職員と入居者との関係性を作っていくためにマンツーマンになる時間を多く取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やご本人様からお話を聞き、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様はその人なりに気ままに楽しく過ごしていただけるように現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期・不定期でのミーティング・カンファレンスで情報を持ち合い、共有し現状に即した、介護計画を作成しています。	ケアプラン作成担当者は、本人や家族からの意見を聞き、アセスメントシートと日常生活動作表を作成し、ケアプランを作成しています。3ヶ月を経てモニタリングを行い、看護記録などを参考にして、6ヶ月のケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護記録を残し情報共有から実践や気づきにより介護計画の見直しをしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	いろいろ変化するニーズに対応できるよう、柔軟な支援に取り組むことに努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を開発し、公園掃除、みこし見学、地域ケアプラザのイベント、外出支援など本人の希望を見極めながら、その人らしく楽しく生活が送れるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望に添える様な体制を築き、適切な医療を受けられるように支援しています。	協力医療機関からは、毎週かかりつけ医チームの訪問があり、ユニット単位で交互に診療を行っています。同一の医師で継続しており変化にも気づきやすく、24時間の健康相談も出来ます。訪問歯科医師も毎週来訪して、歯科診療を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員は、日常のかかわりで得た情報を看護師と共有・相談し、個々の入居者様が適切な受診・看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護者は日々のかかわりあいでの気づき、情報を看護師に相談し、適切な受診が受けられるよう支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	この現場では未だ看取りの段階に至っていない。看取りについての研修もまだである	「入居者重度化に関する指針」を作成して、重度化介護の考え方、支援内容などを伝え、家族と同意書を取り交わしています。現在はまだ重度化に至っている入居者はいません。	ターミナルケアについて職員への研修の実施が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故に備えて救急マニュアルを作成し定期的に訓練を行い実践的に身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に訓練を受け、利用者が安全に避難出来る体制づくりに努めています。	避難訓練は年に2回実施しています。4月には消防署の指導のもとに、夜間想定での訓練、消火器の使い方、専用電話の使用方法などを勉強し、近隣の住民も入居者の見守り役として参加しています。9月には夜間想定での自主訓練を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳を守るため個人を尊重されるような声掛けをしています。朝礼などで接遇・言葉遣いについて話をしていきます。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保については新人研修および全体研修でのテーマとしています。居室でのプライバシーには介入しない方針で、必ずノックをして入室します。呼称は名字に「さん」付けを原則としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自分らしく生活できるよう自己選択・自己決定できるような声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースで過ごせるように心がけて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔保持に注意し、その人らしい身だしなみが出来るように支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の急変や事故に備えて救急マニュアルを作成し定期的に訓練を行い実践的に身に付けているできる力を活かし、じゅんぴや片付け等を手伝っていただき、職員と共に食事を楽しめるよう支援しています。	食材は地元のスーパーなどから職員が購入しており、その際に入居者も同行しています。メニューは以前管理栄養士が作成したものを参考に職員が手作りし、調理の際には元調理師の職員の意見も聞いています。準備や後片づけを手伝う入居者もいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、栄養バランス、水分量に気配りしながら、各人の状態に合う支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口の中に食べ物が残っていると誤嚥や感染症の原因になるので本人の力に応じた口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンや習慣を活かして自立に向けた誘導・声掛けの支援を行っています。	排泄に関して自立し、自分でトイレに行く入居者も多いのですが、排泄チェック表は全員分を記入して、尿意、便意の把握に努め、全員がトイレで排せつできるように心がけています。朝の体操の時間には括約筋を鍛える訓練も行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘にならない様、飲食物や水分量に注意して個々に応じた予防に取り組んでいます。朝食には牛乳、10時にはブルーベリーとヨーグルトを召し上がっていただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調を考慮し、個人のタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂けるように支援しています。	ほとんど毎日入浴の用意をしており、入居者は週に2～3回入浴しています。入浴時間を長くとることを目指し、原則として一人30分職員は1対1で対応し、コミュニケーションをとるようにしています。希望により同性介助も実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	室温の管理や、定期的リネン交換で清潔な環境を提供し、個人の生活習慣や状況に応じて、休憩したり、安心して過ごせるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の病状を理解し、薬の目的、副作用、用法、容量に気を付け、症状の変化や服薬の支援に努めている。処方については申し送りノートで情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各人にあった役割と楽しみごとを見つけ、喜びのある日々を過ごせるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	何気ない散歩から、イベントへの参加、ドライブ、家族との外出などできるように支援しています。	運動不足の解消のために、できるだけ外出の機会を作っています。近所の公園などへの散歩のほか、スーパーや銀行、美術館などに行き、ボランティアの協力を得て外部の行事にも参加しています。入居者の要望でドライブに行くこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つこと、使うことの大切さを理解できるように、買い物に行ける体制で支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に添って電話、手紙できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間を利用者、職員で清潔に保ち季節感を取入れたたり、飾り付けをし、居心地良く過ごせるような工夫をしています。感染予防として定期的なトイレ掃除を行っています。	リビングや廊下などは入居者と職員が共同で掃除し、いすやテーブル、手すりは入居者が清掃しています。トイレと浴室の清掃は職員が担当、トイレは1日3回清掃しています。空気の入替え、温度、湿度にも注意しており、リビングには加湿器を設置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間でテレビ観賞、ぬりえ、読書など、思い思いに過ごせるよう工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の思い出の品や馴染みのある物をおいて居心地良く過ごしていただけるよう工夫しています。	備品はベッド、カーテン、エアコンなどで、タンス、テレビ、鏡台など馴染の物を持ち込んでいます。居室は毎朝入居者と職員と一緒に清掃しています。居室担当制を取り入れ、居室担当者は衣替えの手伝いなどを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています。	各人の出来ることを活かして安全に生活が送れることができ、日常生活の自立が出来るように工夫しています。		

事業所名	グループホーム野の花
ユニット名	2階マーガレット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	企業理念、グループホーム野の花の理念を理解して実践するように心掛けている。新人研修オリエンテーションにて教育を行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的なごみ清掃当番や地域ケアプラザの歌声サロン、くすのき保育園との交流、地域での行事への参加、パン販売を招き入居者様との交流の場を提供するといった、地域との交流を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて、近隣の方をお呼びし、グループホームでの実践の事例を紹介し、理解や支援方法を報告しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議において、役員の方、ご家族様や、近隣の方、入居者様より、意見を頂き、職員に報告し、質の向上を行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区役所や、地域包括センターの方と連携して、ケアサービスの内容を伝え、協力関係が築けるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待防止の研修を行い、禁止となる具体的内容を理解すると共に、報道での虐待事件を職員に報告して考えてもらう時間を作っている。また、虐待防止の対策を講じている。玄関の施錠は夜間帯のみ行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を行い虐待防止を行うと共に、虐待についての報道を朝礼で紹介するようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修は今後行う予定で計画が立ててあります。また、入居者様で成年後見人制度の利用をしている方がおりますので、活用事例としては理解しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が契約者様と読み合わせを行い契約しており、疑問点がない様に努めております。解約時においては十分に相談や、質問に真摯に対応しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に、ご契約者様に意見をいただけることで、運営の質が向上できる旨をお話しております。また、利用者や家族の話を良く聞くことや、要望書ボックス、運営推進会議などから意見を運営に反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営改善の為にボードを設け、職員から意見を募るようにしたり、意見が出やすい環境整備を心がけており、職員の意見、提案が運営に直結できるように整いつつある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者および上長には事業所訪問をしていただく機会があり、個々の実績を評価していただいたり、事業所の就業整備改善の一環で、職員全員を他事業所への研修を許可していただくなど、各自の向上心に期待されています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得や、実践者研修、研修、他事業所への研修など働きながらトレーニングする機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修先で、同業者との交流がり、意見交換し、質の向上に繋がっています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の心情に寄り添いコミュニケーションを密接にとりながら信頼されるような関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する上で安心していただけるよう意見・要望などに対し真摯な姿勢で対応する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用を開始する時に本人と家族が何を必要としているか伺いその対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する人、される人と立場をわけず共に暮らしをする者として密接な関係を築けるように努力しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と共に本人を支えていくという観点で家族と情報を共有して密接な関係を築けるように努力しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人がいても会いに来れるような環境作りをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロアを利用者同士の憩いの場として提供し、利用者同士が関わりあえるよう支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した後でも、必要に応じて連絡をし情報交換など支援に努めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネージメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに希望・意向を確認し全てを把握した上で職員が情報を共有できるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス開始する上で、ひとりひとりの生活歴の把握に努め全職員が情報を共有できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの日々の状況を個人記録に書き留め現状の把握に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族と話し合いをしたり職員同士でケース会議をしたる現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、日々の様子やケアの実践結果などを個人記録・申し送りに記入し職員の情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その人その人にあつた方法で本人のニーズに対応したサービスをできるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ひとりひとりの地域資源を全ての職員が把握し、安心して暮らしていただけるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の意向を尊重しかかりつけ医と常に情報を交換し適切な医療を受けられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々の情報や、特変などを訪問看護師に伝え相談し、利用者が適切な看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、病院関係者と情報交換や相談し退院後にスムーズに生活できるように支援しています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期のあり方について家族と話し合いを行い、家族の同意を得た上で事業所で出来ることを支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全体会議・研修などで応急手当・短期対応の訓練を行い実践力を身につけるよう努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に地域の方と協力し避難訓練を行い災害対策に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者ひとりひとりの人格を尊重・把握し敬意をもった姿勢で言葉かけや対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意思ニーズを尊重し自己決定できるような環境作りを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者が思いのままに生活できるようにフロアを憩いの場として提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしい身だしなみ・お洒落ができるように洋服などを管理・お預かりして季節に応じた服装をしていただけるよう支援しています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者のニーズも日々の献立に取入れ、利用者と共に準備・片付けも職員と一緒にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考慮した献立を作成し、ひとりひとりの嗜好も考慮したうえで食事量、水分が確保できるように支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事後、各人の能力に応じて口腔ケア・清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	毎日の個人記録から各人の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導で排泄の自立に向けた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品を取入ることや、体操・散歩など運動することで便秘の予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	各人の希望を聞いたうえで入浴の時間帯を決めることで個々に応じた入浴の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食事後後、各人の生活歴に応じた休息が出来るように環境作りをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用・用法がかかっている薬情を個人記録につけて、常に確認し服薬の支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各人の嗜好に合わせて散歩・レクなど行い気分転換の支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩以外に定期的なイベント・食事会を行うことで、本人の希望を把握した上で外出支援をしています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の意思ニーズを尊重し自己決定できるような環境作りを行っている同意を得た上でお金を預かり、本人が外出するときにはお金が使えるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要なときに本人が電話したり手紙のやりとりができるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間を利用者が安心して使えるような環境作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアを利用者同士が自由に過ごせるよう、環境整備し、季節感を感じるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の居室には以前から使っていたものや本人の好きなものを置いていただき居心地よく過ごせる工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者各人の出来ることを職員が把握し、出来ることを行っていくことで自立した生活が出来るように工夫しています。		

平成27年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 野の花

作成日： 平成 28年 1月 29日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	ターミナルケアについてほとんど事例がないことから、実際にターミナルケアが発生した場合、混乱が生じると懸念される。ターミナルケアについて知ることが課題となる。	職員がターミナルケアを理解すること。関係者の協力が得られ、安心してケアできる体制を構築すること。	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域で行われている研修への参加</li><li>・ビデオ研修</li><li>・他施設のホーム長による研修</li></ul>	12ヶ月
2		人員不足のため、入居者様の外出支援が出来ていない。	外出支援を充実する	<ul style="list-style-type: none"><li>・人員の確保</li><li>・イベントごとに人員配置に努める</li></ul>	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月